

写真の写真

(幾ばくの嘘)

風が吹き、目を覚ますと別の場所 1



めだかのいた川で続く工事現場の上を飛び交う鴬

風が吹き、目を覚ますと別の場所 2



めだかの居た川辺の番号付きの袋



故郷の川の泥に落ちた鳥の羽



荒波で打ち上げられた小さな鯛



絶滅の手前。日向の道の上に出てみる。



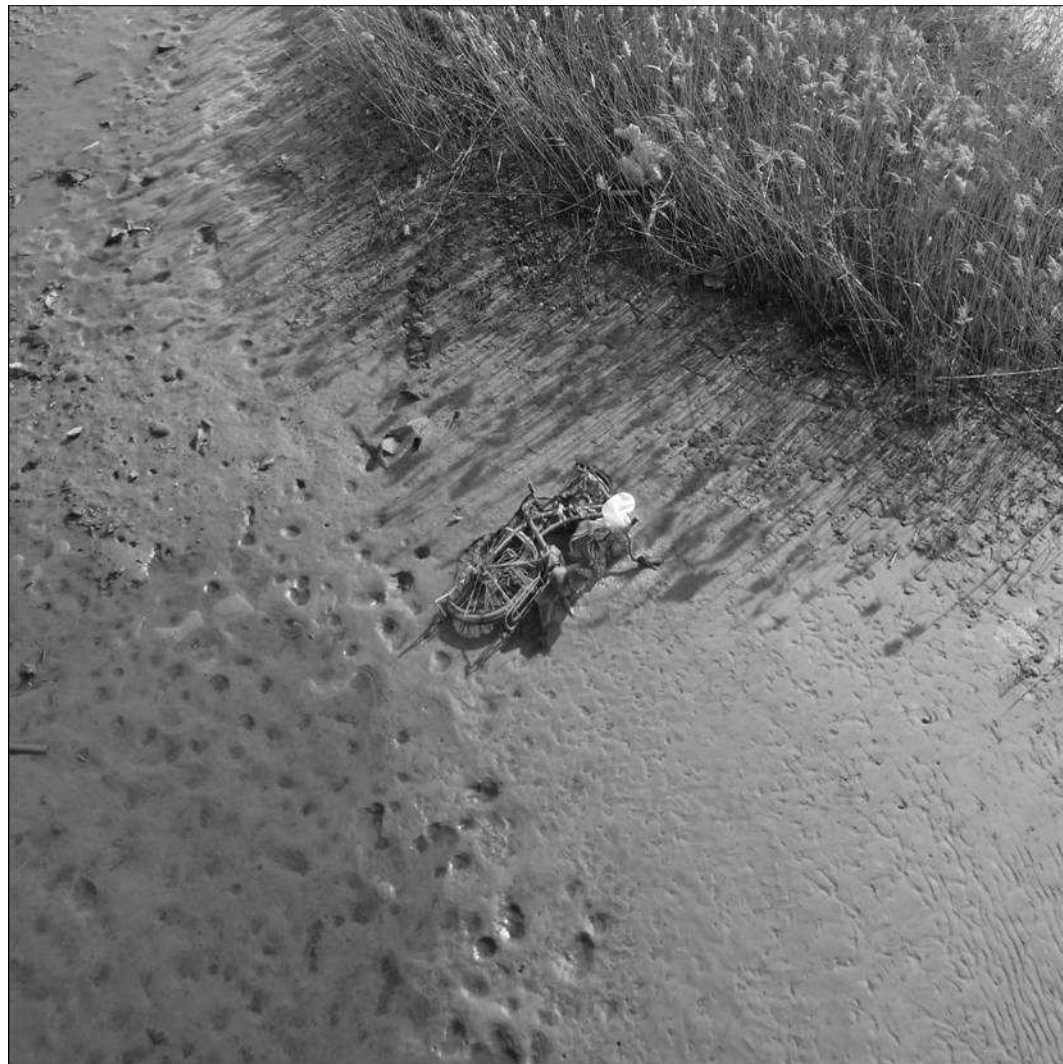
祖母の喪主を務める筈だった叔父が葬儀を前に逝ってしまう前日の彼の庭

あなたは要らない人間です。 1



あと4日でさようならを言う。

あなたは要らない人間です。 2



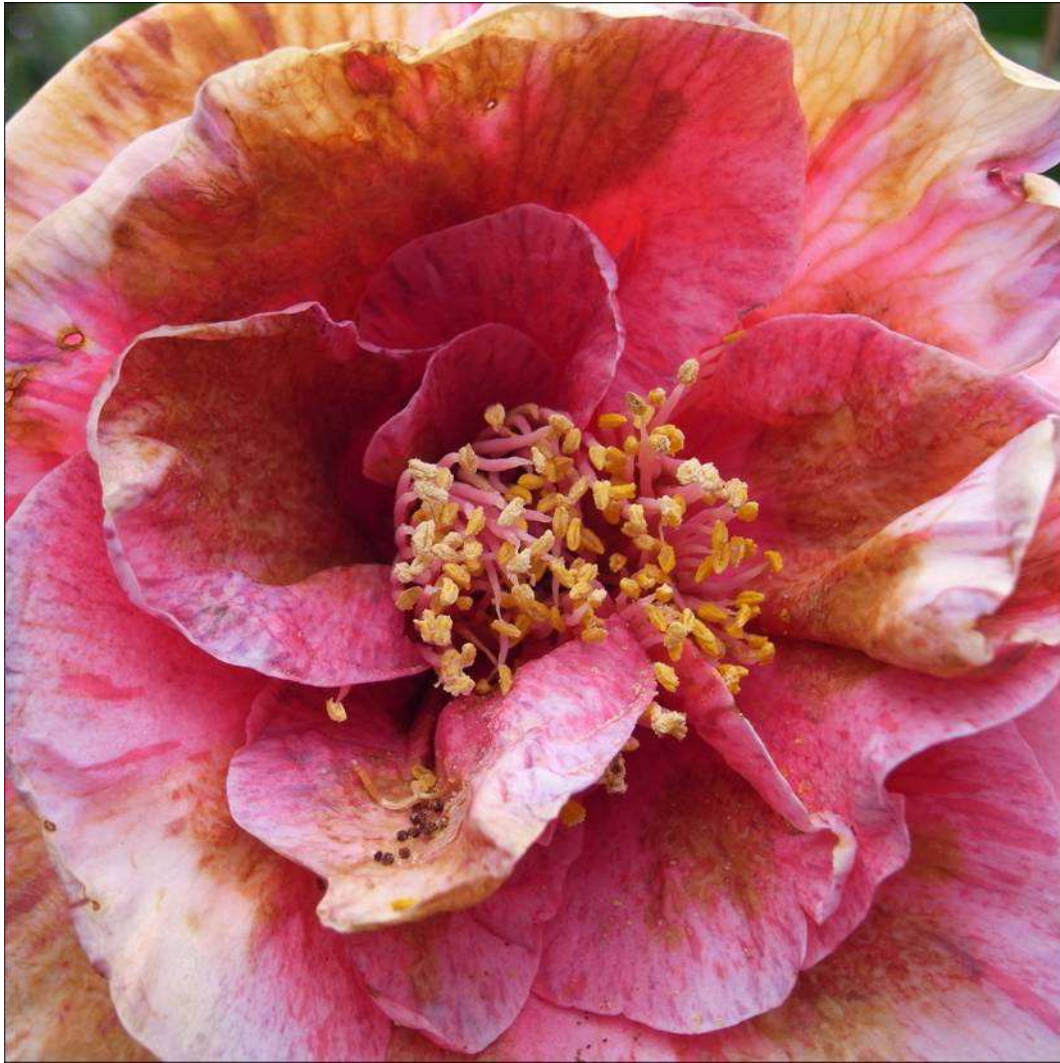
あなたは要らない人間です。

あなたは要らない人間です。 3



一つの終わり、空っぽの始まり

うしろめたさと後ろ髪 1



この椿の花は明日には地に落ちる

うしろめたさと後ろ髪 2



三個の無精卵



使用済みの塵紙めいた白い花卉



小さなものが彼を食べる。

うしろめたさと後ろ髪 5



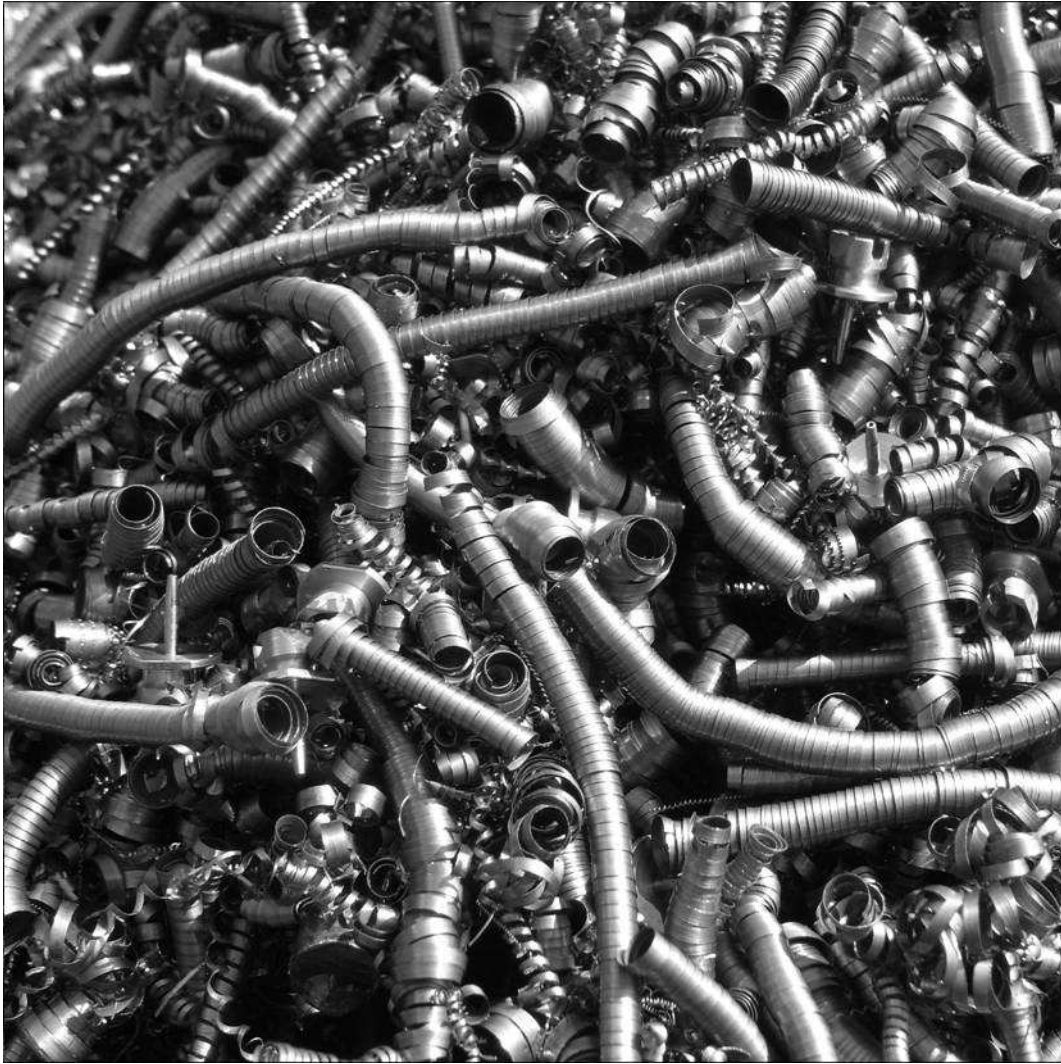
台所で現場の匂いを思い出す。

うしろめたさと後ろ髪 6



濁った流れに身を任せる

うしろめたさと後ろ髪 7



鉄を削った手の匂いを思い出す。

うしろめたさと後ろ髪 8



踏んでしまった蜗牛が、樹上で眠る



百合の鞘が口先だけの私を嘔う。



葉を撒いた地面に寝て、私に怯える子猫



林の陰の食事の後



林の奥の食餌の痕

うろうろ道の行ったり来たり。 1



始末の手前の風の無い日

うろうろ道の行ったり来たり。 2



捨てられた鉢の中の観葉植物の根

うろろ道の行ったり来たり。 3



職業安定所に通う道の途中、夏の終わりの動かない蟬

うろろ道の行ったり来たり。 4



足の下で形と色を失う。

うろうろ道の行ったり来たり。 5



冬の居場所を失う。

うろうろ道の行ったり来たり。 6



曇り空の下の虫喰いのある白い山茶花

こんなところにいて良いはずがない。 1



だれもない植物園の、ちがう生きもの

こんなところにいて良いはずがない。 2



自分を材料として登録した日の二百円の昼食を狙う鴎

こんなところにいて良いはずがない。 3



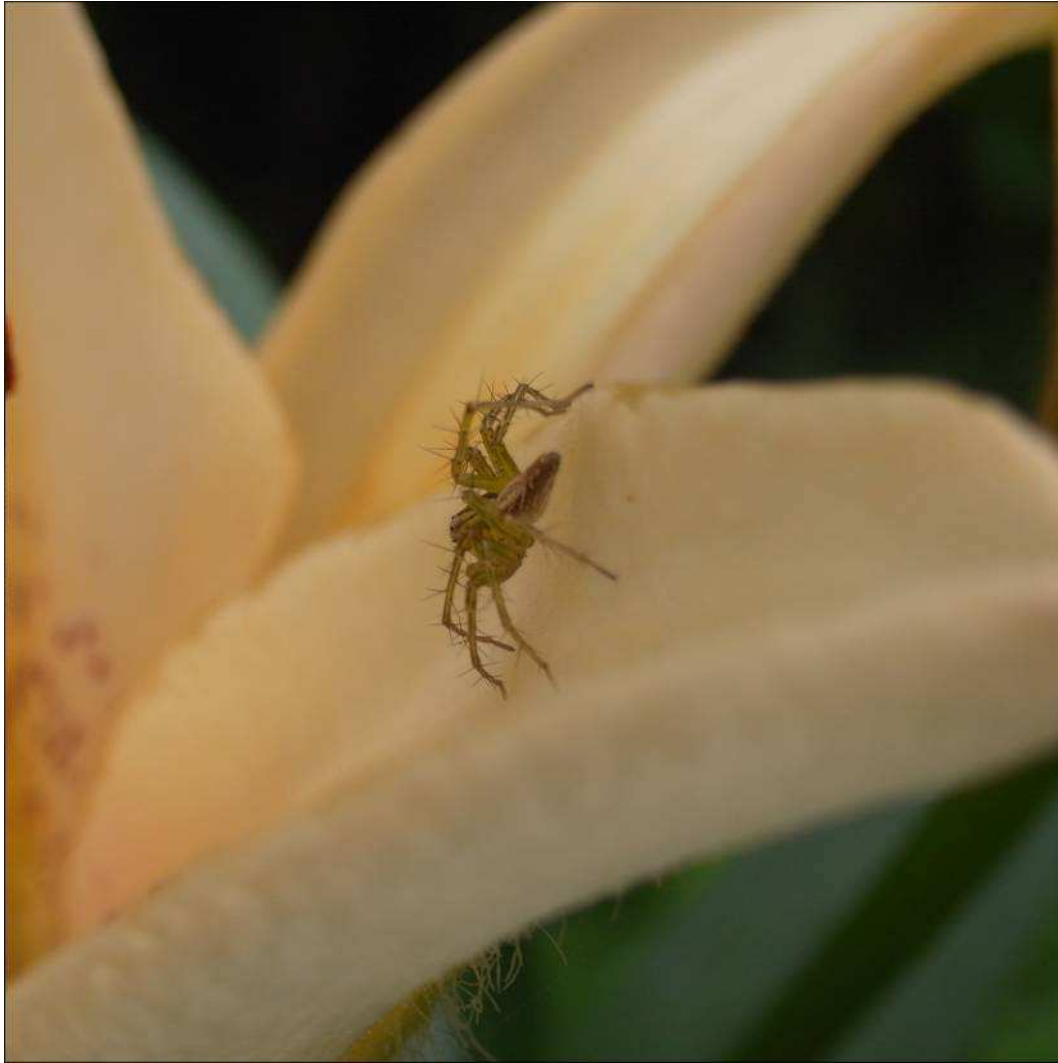
喪主の庭の上

こんなところにいて良いはずがない。 4



男たち

こんなところにいて良いはずがない。 5



百合と蜘蛛

こんなところにいて良いはずがない。 6



糞便を撒き散らした冬の河馬

こんなところにいて良いはずがない。 7



平日の昼に小さな禿山に登る

こんなところにいて良いはずがない。 8



流れ着いて冬を過ごす砂州の上の観葉植物

こんなところにいて良いはずがない。 9



流動する砂をくい止めようとする無意味な扉

すみっこで生きていくよ。 1



もっともまじな手段

すみっこで生きていくよ。 2



意外なほどに立派な

すみっこで生きていくよ。 3



枯れた判断をすべきです。

すみっこで生きていくよ。 4



好きであること

すみっこで生きていくよ。 5



大人のおもちゃは難しい。

すみっこで生きていくよ。 6



二人の経営者

ふたなりの生殖器 1

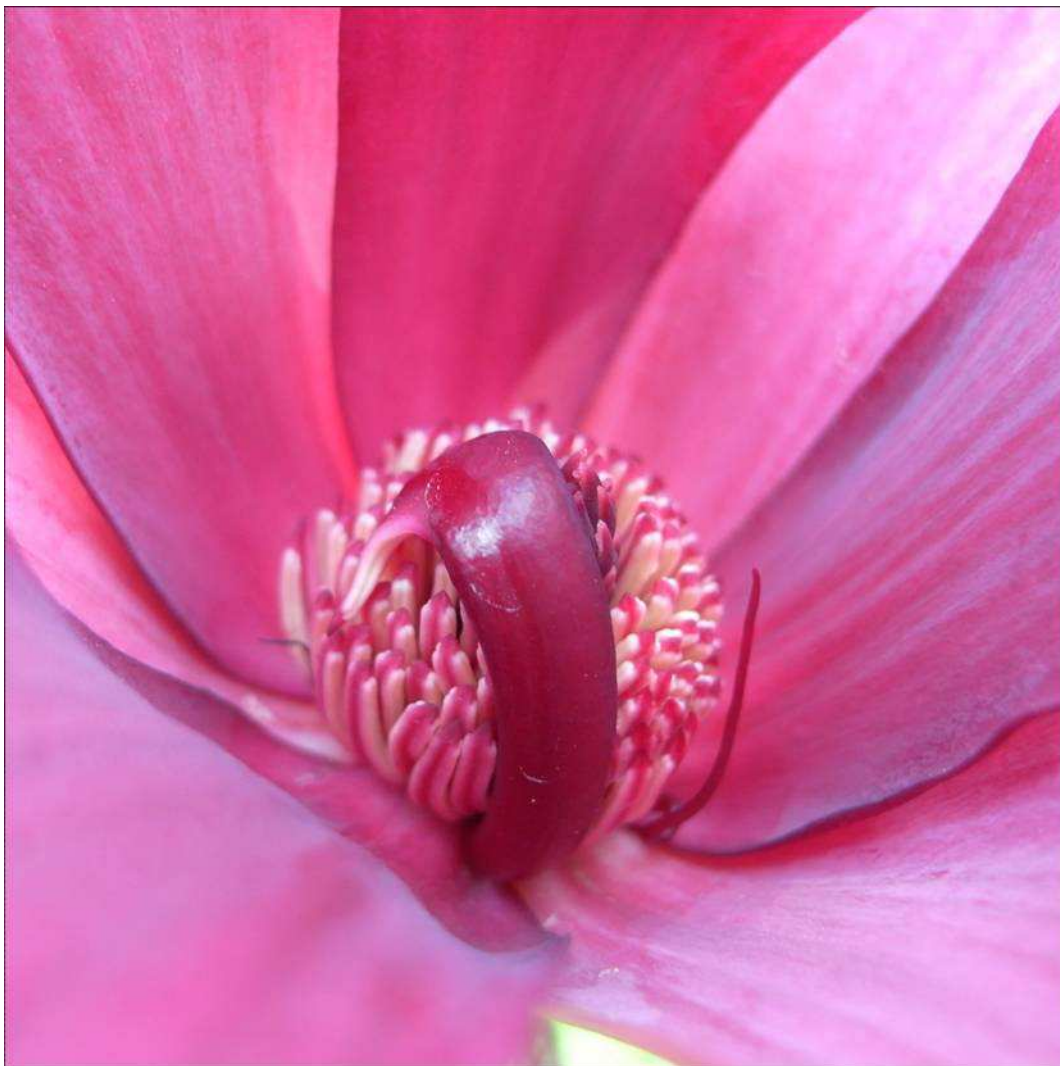


椿の花の奥

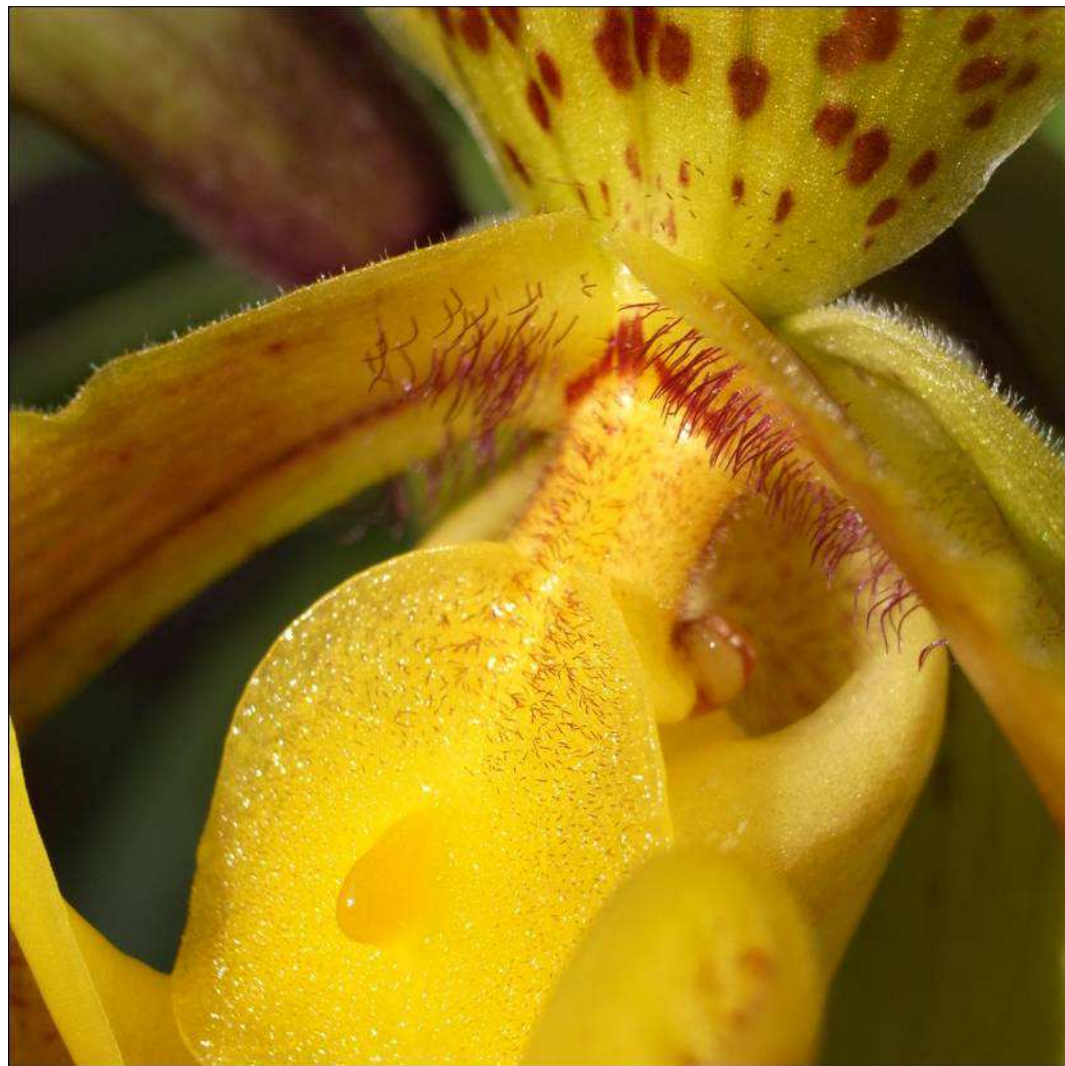
ふたなりの生殖器 2



百合の花の中



木蓮の花の中



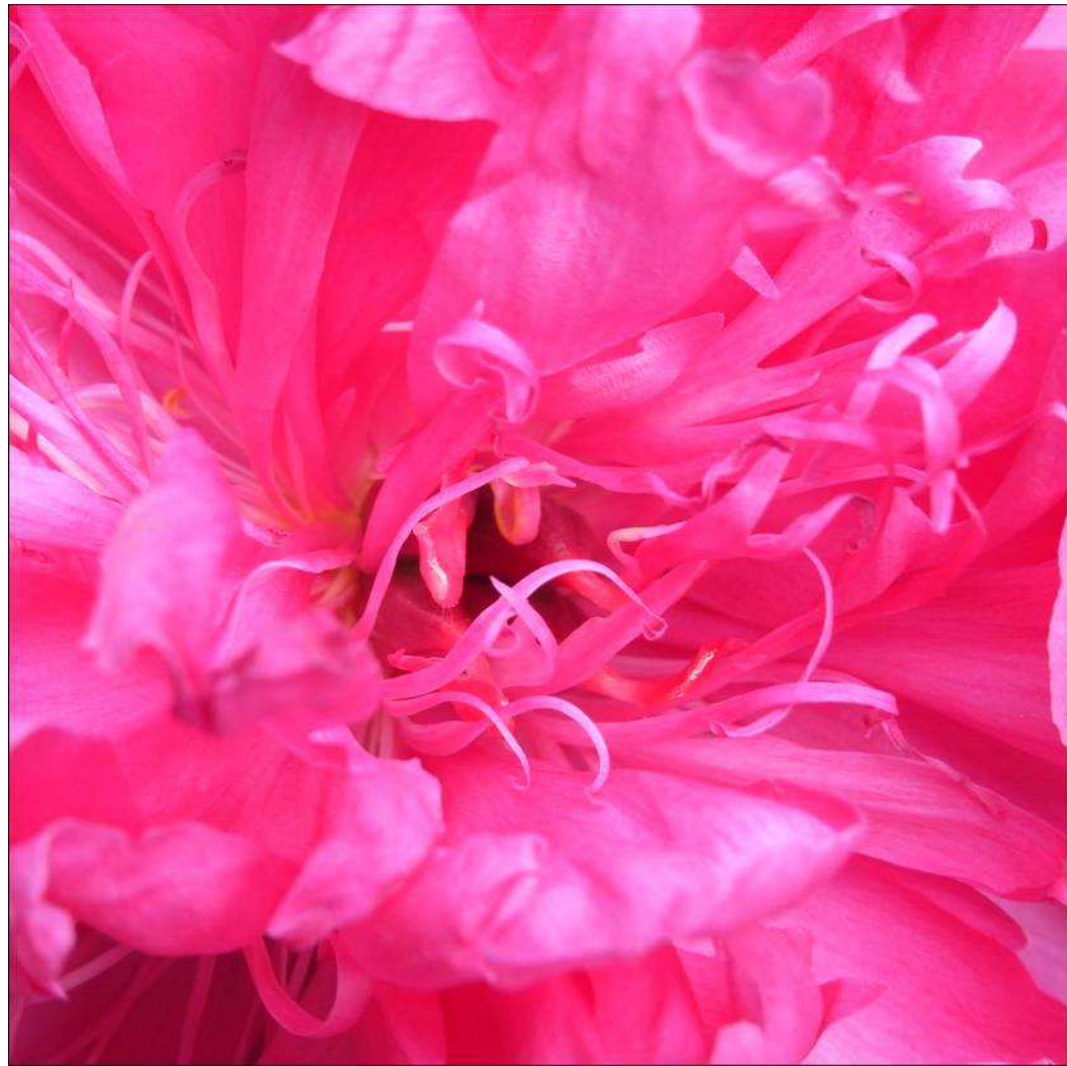
蘭の花の中

ふたなりの生殖器 5



蓮の花の中

ふたなりの生殖器 6



芍薬の花の中

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 1



意外と向こうは遠くない。

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 2



雨の後の女郎蜘蛛

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 3



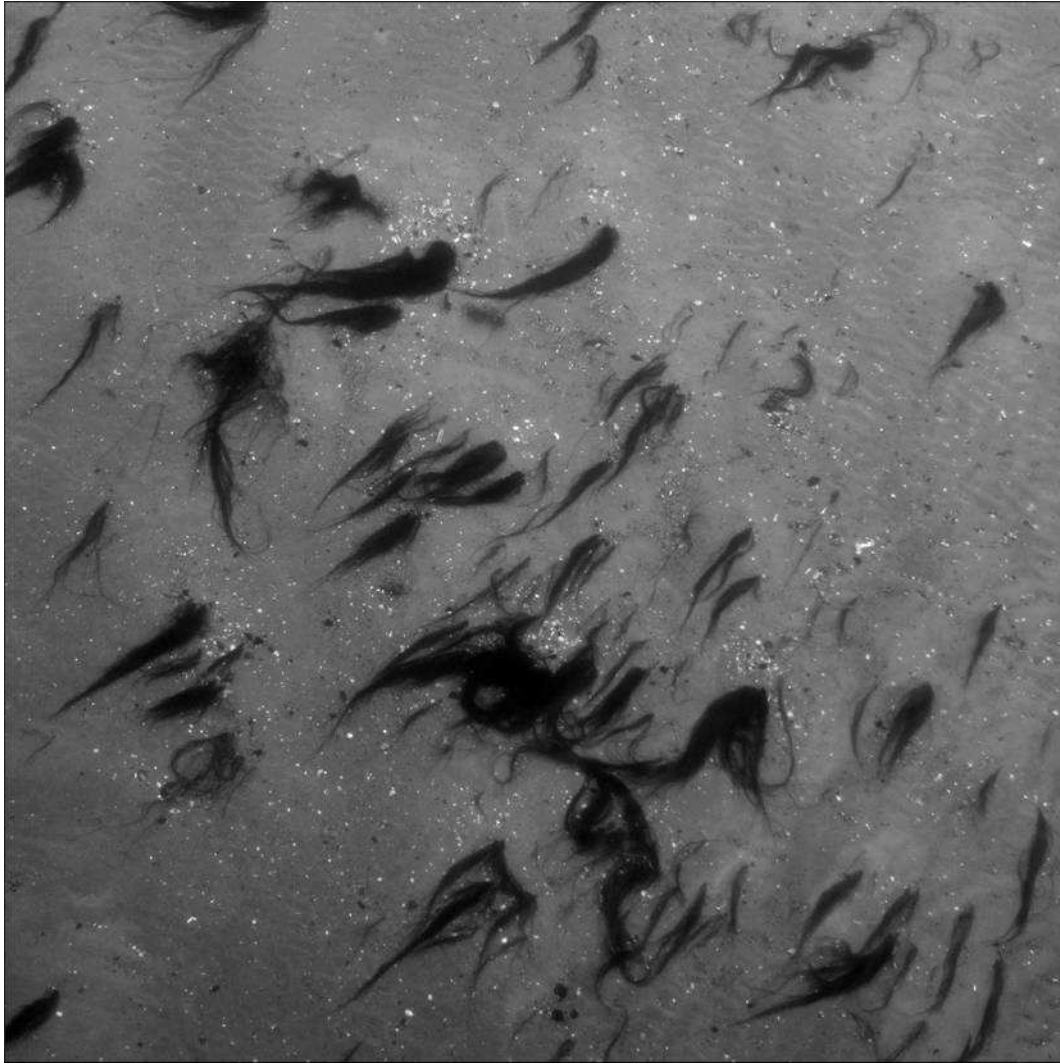
干潟の端で半分潮に浸った網に包まれた瓦礫

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 4



吸い込むことを望む口

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 5



橋の下、河口の水底

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 6



僅かに腐臭のする橋の下の水溜り

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 7



泥の浅瀬で動けない水母

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 8



毒の有る実を手にとってしまう。

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 9



濡れた殻の内側

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 10



斑紋の向こうの蛾

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 1 1



鼻先を失った亀がこちらを伺う

犬が怖くてそちらに行けない。僅かにのけぞる。 1 2



網に包まれ砂に埋まる

交接の始まり 1



まぐわいの半身を失う

交接の始まり 2



汚れを喰らい水を澄ます

交接の始まり 3



群れるがばらばらに在る。

交接の始まり 4



隙間に根をはる

交際の始まり 5



交際の始まり

交際の始まり 6



昔の手管を思い出す。

口を濁す。目を伏せる。 1



お終いの予感に泡が立つ。

口を濁す。目を伏せる。 2



言いたい気持ちが破けてしまう。

口を濁す。目を伏せる。 3



山林に囲まれ、夜の手前。口は閉ざす。

口を濁す。目を伏せる。 4



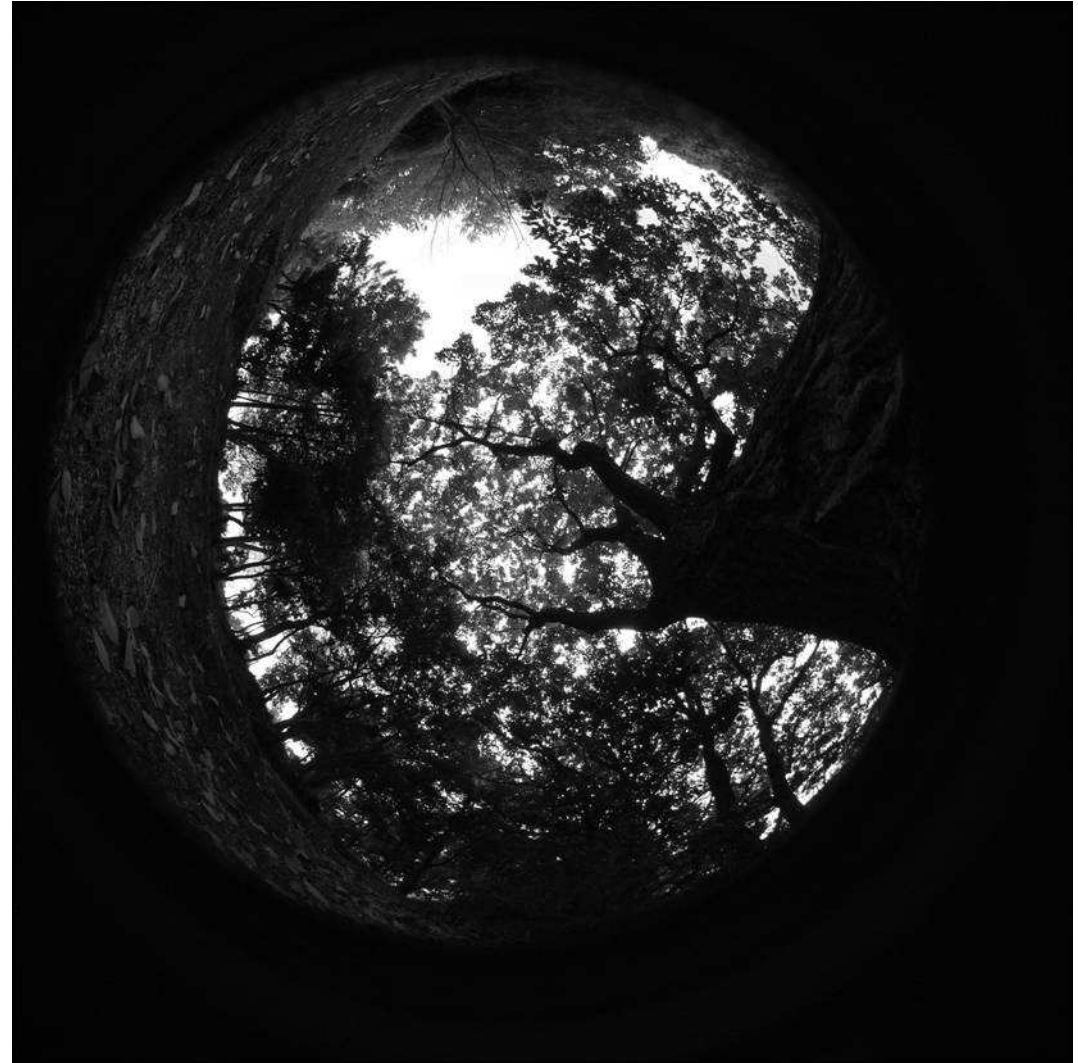
詳しい話は伏せておく。

口を濁す。目を伏せる。 5



服を着ることを諦めたことを黙っている。

口を濁す。目を伏せる。 6



平日の昼にこんな所に居て良いはずもない。

口を濁す。目を伏せる。 7



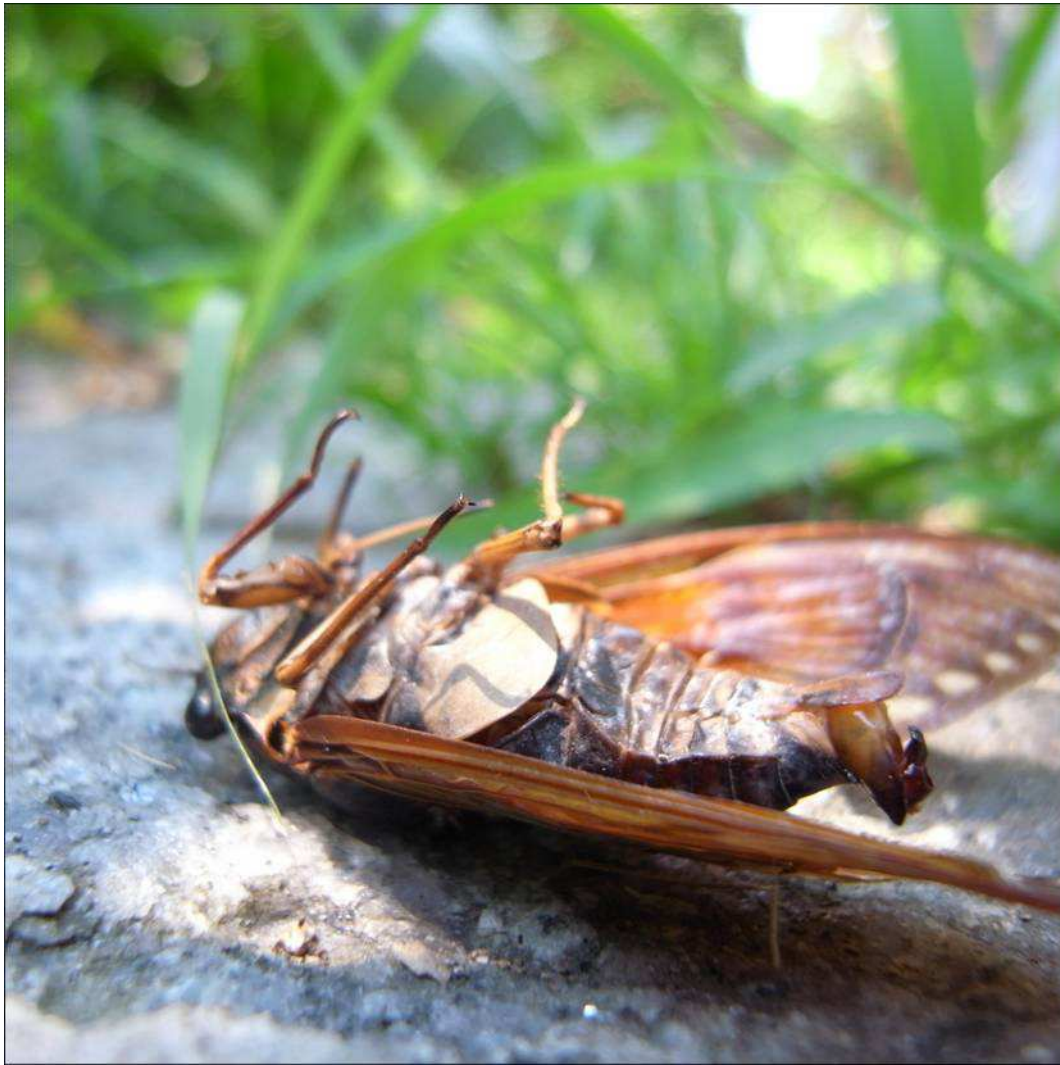
墓石の真上。老いた姉妹が残るのみ。

口を濁す。目を伏せる。 8



盆の迎え火

口を濁す。目を伏せる。 9



鳴き終わって横たわる油蟬の僅かな腐臭

口を濁す。目を伏せる。 10



油虫の温室

口を濁す。目を伏せる。 1 1



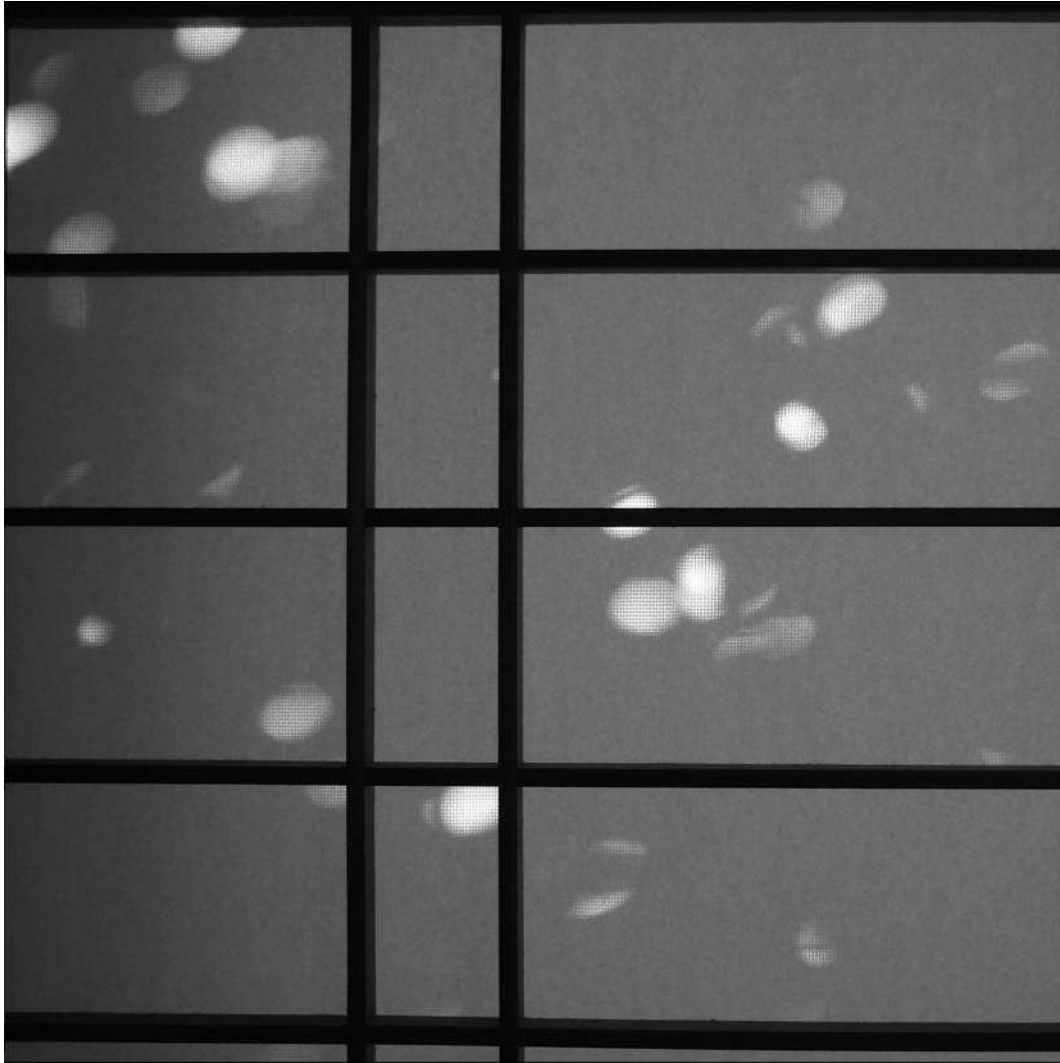
老いた両親の庭には、蝸牛の殻が幾つも幾つも

口を濁す。目を伏せる。 1 2



老いを認めて口を閉ざす。

急情が身に付く 1



外に出るのが僅かに怖い。

急情が身に付く 2



狭い桶の中



沙蚕の巢



砂の中の気泡



砂を喰らい砂を吐き出す



真水を失い、干からびる



怠惰の末に居場所を移す



泥の上で拡がる海藻



泥の上の円環。



泥濘の上の水溜り



土の手前。



冬の紫陽花



冬の手前の飛蝗



冬の初めの蓮



冬の蠅



透明な傘を忘れる。



同じ場所で円を描く。



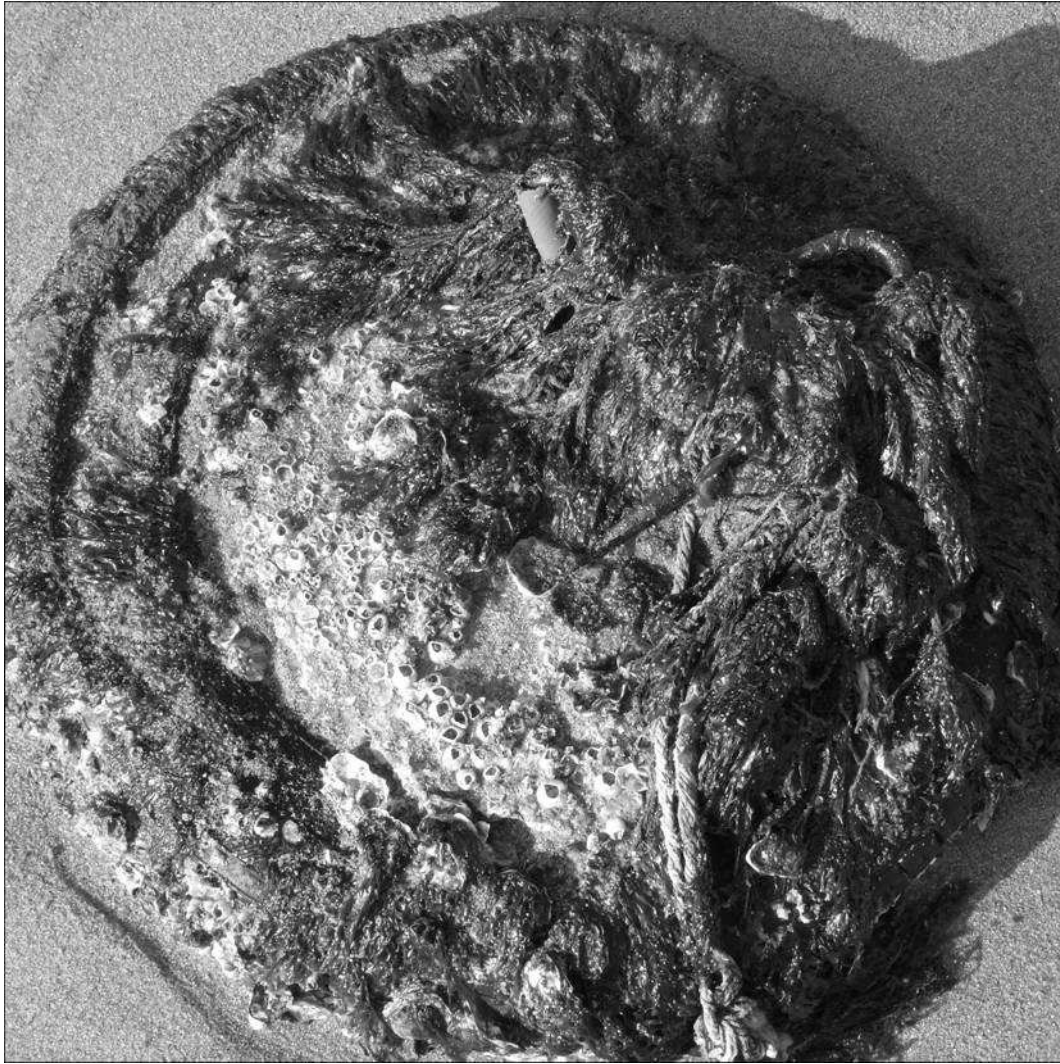
配管にしがみついた海藻



肌が乾く



落ちて平たく均される。



流れの無い場所に居を構える。

タイトル： 本冊 1 ページ目および各写真ごとに個別

作者： 和田聡文

製作年： 2013年7月
(撮影2009～2013年)

素材： デジタル写真 (主にリコー**GX200**)